

じっそうじ てんまんぐう
実相寺と天満宮



実相寺



天満宮鳥居



天満宮への階段

上野国大守（今の群馬県の知事のような役職）の命を受けた惟喬親王が、南蛇井の地に至り霊地なるこの山に心惹かれ、3ヶ月この山にこもった。親王は、都より天台宗座主尊意僧正を招き一寺を開かせた。これが、実相寺の始まりである。尊意僧正は、後の右大臣菅原道真の学問の師であったとされる。

時が流れ、西暦903年、菅原道真が遠く九州の地で罪の許されぬまま死すとの便りを受けた尊意僧正が、その死を悼み、道真が初めて僧正のもとに学問を志した3歳の時の姿を木像に刻み、これを実相寺の傍らに祀ったという。

これが天神社（天満宮）の起こりである。